

活動名	団体名	特定非営利活動法人 日本タッチ・コミュニケーション協会
ベビー＆チャイルドサポートセンターの基盤事業 ～子どもたちの心の声に耳を傾けよう～	地 域	広島県呉市
	代 表 者	理事長 宇治木 敏子
	支援金額	40万円
活動概要		
<p>私たちは、法人化した翌年『子どもの一生を考える連続6回講座』を貴財団の支援により開催した。この事業をきっかけに『子どもの一生をスケールに子育てを考える』という全国的にあまり例のないテーマで子育て支援を始め、これまで『ベビーサポートセンター』をウェブ上で開設し、各種支援を行ってきた。更に現在では、ベビーだけではなく、それぞれの子どもの発達段階に応じた支援が求められるようになり、『ベビー＆チャイルドサポートセンター』へと事業の幅を広げることとなり、その基盤整備を行うため本事業を行った。</p> <p>【教育講演会】</p> <p>子どもの心の声に耳を傾け、子どもの視点で子育てを考えてみようと、心療内科医師の明橋大二氏を招致し、教育講演会を開催した。</p> <p>【子育てのための心理学講座とタッチ・コミュニケーション(サポートー養成)講座】</p> <p>サポートー養成講座として全4回企画したが、実際には、子育てをしている親(聴講生)の申込が殺到した。講座内容は、発達心理学に基づいた子育て理論と、その実践方法としてタッチ・コミュニケーション体験であった。特に、心理学では親自身の養育歴を振り返り、それが我が子の気持ちに共感できる気づきに変わっていった。主催者として、現代の不安定な社会環境で子育てしている親の潜在したニーズに応えることができ、新センターの基盤も整ったと考えている。</p>		
<p>◆実施時期： 2008年5月～2009年1月</p> <p>◆参加人数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1弾教育講演会7月25日(金)：103人(含むスタッフ10人)</li> <li>第2弾子育てのための心理学講座：サポートー養成受講者延べ48人・聴講生延べ63人</li> <li>タッチ・コミュニケーション講座：サポートー養成受講者延べ28人・聴講生延べ63人</li> <li>企画会：スタッフ延べ81人、親子延べ50組</li> <li>タッチ・シッター(託児監護)：延べ31人</li> </ul> <p>【心理学講座の託児は シルバー人材呉に委託】</p>		参加総人員 467名



《教育講演会集合写真》



《ベビー＆チャイルドサポートー養成講座風景/実践》



《ベビー＆チャイルドサポートー養成講座風景/講演》



## ◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ・7月25日に開催した教育講演会は、『まちづくり市民交流プラザ』との連携事業となり、本事業の目的など地域への一層の理解が深まった。(21年度5月の教育講演会も連携事業として予定されている)
- ・明橋大二氏が、心療内科医師の立場で、青少年のリストカット、摂食障害などは、乳児期から養われるべき自尊感情の低さが根本的原因であると体験談を交えて講演され、更に『乳児期から自尊感情を高める具体的なタッチ・コミュニケーションの活動』について深く共感しているとお話をされたことで、全国で活動している子育て支援の団体などに『広島発信の実践的な親子の絆づくり』が広がっていくことが期待できる。
- ・育児サークルや公共の子育て支援の担当者など、県内各地で『タッチ・コミュニケーション実践講座』と『子育てに生かす心理学講座』をセットで開催して欲しいという要望が多くなってきたことは、子どもの気持ちを感じ取ろうというカウンセリングマインドが社会に広がってきたと感じている。
- ・本事業でシルバー人材センター吳との連携が深まり、今後の活動での協力体制が益々整った。
- ・更に心理学を深め、職域にも活用したいという産休中の親の希望に応えて、NPO法人日本交流分析協会の会員の協力を得て交流分析士養成講座を開催したことは、女性の職域を広げ、地域の活性化にも繋がられたと考えている。
- ・第2弾 子育てのための心理学とタッチ・コミュニケーション講座(全4回コース)では、サポートー養成目的だけではなく、親の学びの場として講評制度を設けたために、一般参加者が発達心理学を学ぶ機会を得た。そのため、理論的に子どもの発達を学び、タッチ・コミュニケーションの実践的体験を重ねるというセミナーが親に自信をつけた。子育てに奮闘している親たちが、発達心理学を学ぶことで気づきを得、親子の絆が深まってきた、という自分たちの体験を発表する場を企画し、21年1月23日成果発表した。参加者、スタッフからは貴財団の本事業へのご支援に大変感謝されているという感想も述べられた。当法人としてもこのような展開は大変な成果と考えている。
- ・サポートセンターに関った親たちが体験談を集め、主催者と共に編集し、配布したことで、参加できなかった親や地域へも情報が広がり、センターの活動が益々活発になってきている。
- ・本事業後も、発達心理学のセミナーを定期的に開催して欲しいというニーズに応えて、継続的に心理学講座を開催している。本事業の開催により、『子どもの立場にたった子育て方法』を学べる場が地域に欲しいという親のニーズが益々増えてきたことは、親のカウンセリングマインドが育まれ地域の子育て支援が活発になることが期待される。
- ・また、本事業は吳でのみ開催であったが、自分たちの居住している地域でも、センターの構想を普及していきたいという社会に対して意欲的な親が育ち、地域社会の力強いエンパワーメントとなってきている。
- ・廿日市市、神石高原町、倉敷市など、他地域でもベビー＆チャイルドサポートセンターを開設したいというニーズが生まれ、ノウハウ移転できるよう計画中である。

## ◆苦労した点

- ・講演会をきっかけにベビー＆チャイルドサポートー養成講座の参加者に繋げたいという主催者の気持ちとはうらはらに、聴講生としての要望が予想以上にあり、サポートー希望者が少なかった。
- ・サポートー希望者が少なく、予算どおりに収入が上がらなかつたため、経費を削減し、新しいタイプのパソコンを購入することを断念し、中古パソコンを購入した。
- ・講演会の告知は広島市との連携事業として、広島市の広報紙「市民と市政」にて参加者の呼びかけを行ったが、紙面の関係上告知スペースが小さく、また、募集期間も短かったため、広報誌での告知は予想したほどの効果が得られなかった。

## ◆今後の課題・発展の方向性

- ・サポートー数が不足しがちであるが、吳ポートピアでの開催はシルバー人材吳との連携により、現在は解決できている。しかし、他地域からの要望もある為サポートー希望者の募集、養成講座は継続的に行わなくてはならないという課題がある。
- ・平成20年度開催した本事業が基盤となり、センターでは定期的に発達心理専門のカウンセラーの相談業務が開催できることになった。また、更に子どもの発達に合わせたセミナーが行えるよう準備が進んでいる。本事業の目的通り、幼児以降の子ども年齢にも支援の幅が広げられ、対応できるよう整備できた。2009年4月には、ベビー＆チャイルドサポートセンターに改名し、5月には告知のための教育講演会を開催することが決定している。
- ・5月30日に田島 信元 教授【専門分野：生涯発達心理学(母子関係・教師-生徒、障害児関係・施設スタッフ-認知症高齢者関係が認知発達および脳機能改善・促進に及ぼす影響過程の研究) 文化心理学など】を広島に招致し、教育講演会を開催することになった。また、貴財団の支援して頂いた本事業が布石となり、親としての自立性が高まつたことを、講演会の場で親が成果発表することも予定されている。貴財団にも是非ご参加頂きたい。
- ・居住地域で、セミナーを受けたいというニーズに応え、県内各地で参加者主体のベビー＆チャイルドサポートセミナー企画が進行中。来年度の事業展開に期待されている。
- ・廿日市市、神石高原町、倉敷市など、現在ベビー＆チャイルドサポートセンターを地域に導入したいと、申し出ておられる地域に、ノウハウ移転を準備中、普及活動を組織的に広げていきたい。と同時に経費の捻出も課題となっている。

## ◆活動を終えての感想・意見等

親はより良い子育てをしたいと願っているが、現実には、乳幼児のときからの子育てを正しく理論と実践の両方が体験型で学べる場が少なく、それが社会の問題なのだと実感しました。学ぶ場さえあれば、親は意欲的に子どもの気持ちを感じ取ろうと親の心が変わり、子どもに対しての接し方、言葉のかけ方が変わり、親子関係の絆が深まります。特に、人間の発達段階を正しく学ぶことで、子どもへ自信を持って接することができるようになり、子ども達も安心して成長できます。それが青少年の健全育成に繋がっていくと期待できます。このような根本的な社会の課題解決のプロセスを本事業は検証できたのではないかと思います。参加者自らが企画会に出席し、自分たちの体験をもっと多くの悩んでいる親に知らせたいと体験談を編集されたことは、主催者としても大変満足できる成果となりました。ご支援を賜った貴財団に心より感謝の気持ちを表したいと考え、今年5月30日(土)に予定しております教育講演会には、ぜひ貴財団様のご出席頂き、あらためてご報告と成果発表をさせて頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。